

「探究学習・調べる学習ひろば」参加者のコメントから_9

9月13日(土)20:30~22:00に実施された「探究学習・調べる学習ひろば」の第9回は、29名がライブ配信に参加、事後アンケートに5名が回答して下さいました。以下、抜粋引用(青文字)するとともに、簡単な回答・コメントを記します(♪…南 / ★…山崎)。

【お知らせ】アーカイブ用HPをつくりました

→[こちらをクリック](#)

- ・PCスマホいずれも対応
- ・Webブラウザのみで視聴閲覧可能です
- ・まだ準備中のコンテンツも順次公開予定
- ・GoogleDriveは更新停止します



作品研究は読解力。それがなければお金、市場、作り方…

【おたけし読書】

調べ学習系の40ページくらいのハードカバーの本をノンフィクションとして入れているのを見て、こういう場面で活用すればいいのか!と思いました。本で調べる学習が少なくなる中、買うのをためらいつつ「でもこういう情報はほしい、こういう視点の本が必要」と思った調べ学習系の本がまだまだありました(現職時代)。どんな本でも、活用方法を提案できるようになりたいものです。

【探究大全】

それなりの歴史もキャラクターやストーリーのバリエーションもあるという意味で、「プリキュア」を調べたら面白そうだと思います。こうしてみると日本のアニメはほとんどジブリー一択ですね。深読みしたくなるのでしょうか。何回かお話を聞かせていただき、どんなテーマでもある程度の割合で「なぜ売れるのか」「なぜ受けるのか」「どうやってできた(作った)のか」を分析する研究になるんだなあ、という印象がありました。就活生向け?の業界解説書が使えるということは、覚えておこうと思います。(CK@学校司書モデルカリキュラム受講生)

♪シリーズで一か所に入れてしまうと、本棚が壁みたいになってしまうので、主題で分けられるときは分けるようにしています。『サバイバル』シリーズや『実験対決』シリーズも、主題で分けて置いているので、ときおりいろんな本棚からシリーズを集めてまとめて置いていく猛者が現れます(笑)生徒にとってはそのほうが使いやすいのかなと思いながら、いろんな本棚を見てほしいなという思いで「主題で分ける」を貫いています。

ジブリがテーマでよく出ていたのが、画用紙タイプの卒業研究をしていた論文になる前のことなので、「私が本当に好きなもの」を開示するのはためられるけど、なにか興味のあることでやりたいと思ったときに、そのころの生徒にとって「ちょうどよい」テーマだったのかもしれませんが。プリキュア、歴史も重ねていておもしろそうですね。テーマにしたい子が出てきた時用に、こんな本も所蔵してます。https://www.lib-eye.net/seikyogakuen/book_detail_auth?authcode=L0VduBWndil3AMIONE05AQ%3D%3D

★>プリキュア

いいですね。歴史の長いアニメもそれなりにあるので、文献が乏しくても読解力あるといいフィールドワークになりそうです。過去、「女子向けヒーローアニメの系譜」みたいな研究をやりかけた生徒はいましたね。今回はとり上げませんでした(違う分類に入ったかな?)、戦隊ヒーローものにおける女子の表象なんかもありました。いずれもジェンダー×アニメですね。論文にはならなかったけど、面白い生徒たちでしたね。

完成した論文自体はジブリとディズニーの二大巨頭ですが、じっさい研究の途中はもう少し多様かも？ 新海誠とか、細田守とか、そのほかいくつかのタイトルとか…。

>どんなテーマでも

これは僕の見立てですが、作品読解、作品解釈といった文学的な研究をやるだけの読解力がないと、結局は「お金の話」「市場の話」「消費者の話」「作り方の話」に行くしかないんですね。それらが浅いテーマだとは思わないですが、目に見えるお金や観客動員数といった数字の話にいきつくのが中学生あるあるですね。高校生で論文書いたらまた違うのかもしれませんが。これは他のコンテンツ、ゲームや映画などでも同様の傾向がありますね。

いまだに鉄板「カラフル」「まちトム」「獣の奏者」「ぼくらの～」/ 探究大全パイロット版の行方

第9回の配信聞かせて頂きました。大変面白かったですー、特に今の中高生の好みの本がとても参考になりました。こういった生の情報は、現場の方が一番新しく詳しいので、ありがたいです。また、古くても名作(「カラフル」など)は読まれるというのが知れて嬉しかったです。参考になりまくるので、知り合いにこの会を勧めまくっています(笑) 以前お伺いした「テーマが決まらない子が、なんとなくゲームをテーマにして失敗する」というお話も詳しくお聞きしたいので、ゲームテーマなども期待しています。(格闘系司書@大学図書館司書)

♪ありがとうございます。励みになります～！！ 森絵都『カラフル』、はやみねかおる『都会のトム&ソーヤ』、上橋菜穂子『獣の奏者』、宗田理『ぼくらの七日間戦争』が本校の鉄板本です。おためし読書を始めた当初から人気があり、学級文庫に入れたところ、毎年よく読まれています。学級文庫に出すと傷みが早かったり、紛失もするので、何冊購入したことかというくらい購入しています。

★いつもありがとうございます！ 「ゲーム」の回は、実はこの「ひろば」が始まる前に、「探究大全」としての収録を終えてしまったんです。1時間半くらい喋ってます。テーマは「ゲーム」「食」

「菓子・お茶」「スポーツ」「コンビニ・外食産業・小売業」「ファッション・デザイン・フォント・色」の全6回。ちょうど去年の今頃です。リスナーはいませんでした。司書室で喋って収録していましたが、いま聞き直してもかなり面白いので、ひろば参加者向けに公開してもいいのかなあと思うのですが、生徒の個人名が出てたり、いわゆる「文化資本」など家庭環境への言及など結構厳しい分析してたりで(面白いんですが)、「ピー音」での編集は必須です。どうしようかな。

清教生も朝読では小説読む生徒多し

アーカイブ・資料公開用のサイト、とても見やすいです。ありがとうございます！第8回の朝読と第9回のおためし読書についてですが、本校では朝読は各学期に1回、それぞれ1週間ずつ行っています。それでは読書の習慣が身につかないだろうとは思いますが、他の行事との兼ね合いもあるので、毎日やるのは難しいと感じています。また、読む本も小説を読む生徒が多いようなので、清教学園さんで1類や3類の貸出が多いと伺って、驚いています。

おためし読書は1度もやったことがありませんし、教員からの要望も今のところはありません。お話を伺って面白そうだとは思いますが、本の準備をするのが大変そうなので、本校での実施は難しいなと感じました。(図書館に常駐しているのは私1人、司書教諭の資格を持っている先生方は、他の仕事で忙しく、図書館にもほとんど来られない状態です)ただ、生徒が多くの本を手にするよい機会になると思うので、できる範囲で参考にしたいと思います。(むぎ@私立高等学校学校司書)

♪見て回った印象ですが、朝の読書で読まれているのはやはり物語の本が多いと感じます。本屋さんで平積みされている本を読んでいる生徒が多いです。単純に、ノンフィクションの本に出合う機会が少ないのかな、と思います。なので、おためし読書など手に取って読む機会を設けると、一定数”当たり”が出るのかな、と。

図書館を空けてしまうことに抵抗ありますよね。むぎさんの学校の状況は分からないのですが、図書館のオリエンテーションの時間とか、どうしても発生してしまった自習の時間なんかをもらって、生徒に図書館まで来てもらって行っていたこともありました。本棚に並んでいたら動かなかっただろうな、という本が動くとうれしいです。

★南先生も書かれてますが、第8回のように「ノンフィクションだけをためし読みする機会」でもない限り、基本的に清教学園の生徒も小説を読んでいますね。紹介したスライドで1類・3類の貸出が多かったのは、ノンフィクション限定のためし読み企画でのデータだったからです。これ、選書対象に小説も加わっていたら、どうなったのだろう。913.6が半分以上になるかな？分析的には、フィクションノンフィクションまぜこぜにしたらどうなるか、データとってみるのは面白そうです。機会あったらやってみます。

こうした企画、やろうと思ったら人手はいりますよね。図書館配置スタッフが実質お一人なら、学年所属の先生を巻き込む必要はあるでしょうね…。昨年やりかけた企画で、クラスでの実施はもう担任の先生にお任せしようか、という流れもありました。こちらは選書だけして、担任の先生と掃除係りに前日机上面陳してもらい、翌朝の実施も担任と副担がやる、みたいな。朝読の時間は図書館あけられるの

で、端末もって貸出に行く時間くらいはとれるし、と。まあその辺りは、各校内の実態に合わせて工夫のしようはありそうです。

【ゲスト出演頂きます】公共図書館での探究学習支援

「おためし読書のはじめかた」は、読書に抵抗がある人でもいろいろな本を見ながら決めていけるので、ハードルが下がってよいと感じた。読書＝小説 という考え方が多いのかもしれませんが、活字に親しむだけであれば何も小説にこだわる必要はないと思いますし、もっと多くのジャンルの本に触れた方がよいと思うので、こういう取り組みはとても良いと思いました。図書館現場でも特集展示を組むことが多いですが、イベントとして取り組んでみてもよいと感じました。近隣の学校との連携事業でやってみたいと思います。

「アニメ・マンガ」

前回はそうですが、テーマ決めて難しいと感じました。また、そういった資料を用意するのも一苦労ですよ。公共図書館はある程度網羅的に集められる気がするのですが、小中学校ですと、予算もあると思いますし、なかなか新しい資料を購入できないと感じたことがあります。ニッチなテーマほど大人向けはあっても、小中高のティーンズ向けは限られた物ばかりで、深い探求をしてみたいと思ったときに壁があるのかなと思いました。これは、アニメマンガだけではないと思うのですが、結局はフィールドワークしながら、様々なものを見聞きし、自分なりにまとめていくしかないのかなと思います。論文の話も出ていましたが、さすがに論文は難し過ぎて、逆にモチベーションが下がってしまうのかなと思いました。それでも、司書として情報提供することは必要ですが、その子にあった提供の仕方も考えないといけないのかなとも感じました。先生方と私たち現場の司書と環境も対象とする人たちも違いますが、こういった機会を通じて学校現場の話を聞けるというのはとてもありがたいと思っています。今後も興味深いお話を伺えればと思います。

さて、公共図書館現場における夏休みの探求学習サポートについてですが、カメラがないので音声だけと言うことであれば、事例発表可能です。

残念ながら私が勤めている藤原図書館ではサポートは無かったのですが、日光市内にある他2館ではあったので、簡単に紹介致します。

【今市館】

- ・コンクールに提出する作品のまとめ方がわからないという問い合わせが3件
- ・引用文献について、作品にどう入れればいいのかわからない1件
- ・大人がどれくらい手伝ってよいのかという問い合わせ1件

【日光館】

- ・楽器（サクソ）について調べている子が来て、関連資料を出してあげた。
- ・カブトムシについて調べている子が来て、関連資料を出してあげた。

どのようなアプローチをしながら資料を提供したまではヒアリングできませんでしたが、日光館では姉弟で参加されているようなので、一緒に来て一緒に調べて行ったのかなと思います。

後は、私が以前いた別の現場で携わった際には、ポプラディアを使いながら調べを進めた記憶があります。テーマはなんだったかまでは忘れてしまいました。

その時は、夏休みに調べ学習の講座を開き、それこそポプラ社の方をお呼びしてレクチャー頂いたと記憶しております。その流れで、上記のような対応をしたことを思い出しました。

今の学校では、ポプラディアは冊子体ではなく、オンライン版を使っているのでしょうか？ オンライン版は契約しないと使えないと思いますので、図書館によってはオンラインよりも冊子体で利用されるところが多いような気がします。個人的には、ポプラディアはとても使いやすい事典ですが、今の子どもたちは別の出版社の事典の方が人気があるのでしょうか？（小学館とか講談社とか、学研もありますよね）少し話がそれましたが、以上となります。よろしくお願いします。（平原 ヒトシ@公共図書館館長 司書）

♪「読書支援」「読書教育」の対象は物語のイメージが強いように思います。ノンフィクションの影が薄いのは、その影響でしょうか。

大人を対象に、参加者に各自で本を持ってきてもらって、その本をまわすという研修をしたことがありますが、おもしろかったです。子ども対象だと、本はこちらで準備したほうが良いですかね。

本校では、電子書籍は基本的に契約していません。新聞DBの「朝日けんさくくん」を50ライセンスだけ契約しています。ポプラディアは紙のものを使っています。オンライン版は便利ですが、中学生にはオンライン版はまだ早いかなと思っていて、利用料も、現状の使い方とちょっと見合わないかなと思っていて。ただ、ポプラディアは調べ学習でよく使うので、初版から第3版まで複数セット所蔵しています。

事例紹介、ありがとうございます！ ぜひお願いします！！

★>読書でも抵抗がある人でも～

ぜひぜひ。じっさい公共図書館の企画で、片岡先生がおためし読書をされていました。「みんなで何かやってみる」企画の面白さは、なかなか読書とマッチしないこともあるのですが、似て異なるものに「味見読書」や「直観読みブックマーカー」などもあります。誰か似たようなこと考えてるのはやはり需要があるからだろうなと思います。公共図書館でのイベントも盛り上がりそうですよね。

事例発表、ぜひお願いします。別途柏原さんから連絡いきますのでご確認ください。児童・生徒も、けっこう公共図書館たよっているんですね。そういう様子、学校ではたらく僕らは逆に事情をあまり知らないなので、ゲスト登壇を楽しみにしています。

本を紹介しても絶版なのです…

いつもためになる配信をしていただき、ありがとうございます。公開していただいた本棚を、選書の参考にさせていただいています。発注したところ【品切れ・重版未定】だったりもしますが、似たような本を探して購入しています。「猫・犬」の本棚なども「準備中」とのこと。楽しみです！(mana@県立高等学校司書)

♪20年ほどかけて育ててきた本棚なので、そうやって使っていただけると嬉しいです。最近とみに「品切れ・重版未定」多いですね。特に子どもの本は売り切って終わりの所も多いそうなので、気づいたら早めに購入するようにしています。

★清教学園の本棚も、けっこう古い本が多いんですよ。「これはいい本」と思ってもすでに流通していないのはあるあるで…。過去に他校の先生向けのブックガイド(なんでも学べる学校図書館をつくる1・2)を作っていたのですが、勧められてもう買えないよ～という状態ばかりでした。こればかりは出版業界を応援するしかないですね…。

アーカイブ用の簡易HPつくってみました。まだまだ「準備中」箇所あります。別の方のコメントからは、「ひろば」が始まる前に収録していた全6回の音声データ公開も検討の必要が出てきました。「楽しみ」と言われるとやらなきゃなあ。

